

銀杏 《 愛校 自主自律 》

南陽市立宮内中学校 学校だより

<http://miyatyu.sakura.ne.jp/>

学校は、児童生徒自らの手で創り上げる素敵な場所である！！

コロナ禍によって、人とコミュニケーションを図る手段の1つに「オンライン会議」が出てきました。南陽市の小中学生も今年度から一人1台のタブレット端末を持ち、さまざまな学習に活用しています。そのような中、シランカ生徒会長を中心とした2つの協議会が開催され、宮中校区の児童会・生徒会の役員との協議、そして市内3中学校生徒会との協議がそれぞれオンライン会議で行われました。学校は、児童生徒自らの手で創り上げる素敵な場所として、さらに充実・発展させてほしいと思います。

1 宮内中学校区児童生徒連絡協議会(2.21)



宮内中・宮内小・荻小・漆山小の生徒会・児童会執行部の代表が、自分のタブレットを駆使しながら、オンラインでの協議会を行いました。初めての試みということもあり、試行錯誤しながらの会となりましたが、自分の思いや考えを堂々と伝えあうことができました。各校の生徒会や児童会の取組みの成果と様々な意見交流を通して、「SDGsでよりよい地域を創る」ことを共有し、来年度の各校の取組みにおける大きな方向性を見定めることができました。

2 南陽市中学校生徒会連絡協議会(2.22)

宮内中・赤湯中・沖郷中の生徒会長や副会長等、合わせて13名による南陽市中学校生徒会連絡協議会が行われました。

今回は、各校生徒会の取組みの情報交換、来年度の南陽市連合運動会について、そして南陽市中学校からいじめをなくすために「いじめゼロ宣言」を作成することについて、本音で語り合う協議会として熱く語り合いました。

このコロナ禍で大切にすべきことを踏まえながら、自分たちの願いや思いを本音で語りあう、大変貴重な協議会となりました。この協議会で出されたことをさらに集約・吟味して、具体的な取組みになるよう引き続き3校で話し合っていく予定になっています。



宮中健児の大活躍！「祝勝垂れ幕」をありがとうございました！

これまでお知らせしてきたように、今年度も宮中健児の体育面・文化面での活躍が、たくさん光り輝いた1年となりました。保護者の皆様の物心両面に渡る多大なるご支援により、総額 ¥180,500 円のご浄財を賜り、合計4本の祝勝垂れ幕を体育館南側壁面に2本ずつ掲げさせていただきました。

登下校の際、この垂れ幕を見ながらこれまでの頑張りに自信を深め、さらにこれからのさまざまな活動への大きな意欲につながっています。引き続き、宮中健児の活躍をご支援賜りますよう、お願いを申し上げます。この度は、誠にありがとうございました。



特別支援学級同志の卒業祝賀会が行われました！！

2月22日（火）、宮中校区の特別支援学級の子どもたちが、タブレットを使ったオンライン形式の卒業祝賀会を行い、まもなく卒業を迎える小学6年生と中学3年生の門出をお祝いしました。その会では、心のこもったお祝いの言葉やハンドベルの演奏そして新たな旅立ちへの決意表明など、素敵な時間を共有することができました。3年大橋緋奈乃さんも、自分の思いを後輩に託するメッセージを披露してくれました。4月からの新しいステージで、これまで学んできたことをたくさん発揮してほしいと思います。



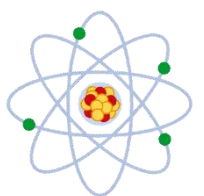
3月の主な行事予定

- 2日(水): チャレンジテスト
- 4日(金): 判定職員会議
- 9日(水): チャレンジテスト
: PTA 会計監査
- 10日(木): 公立高校一般入試
- 14日(月): 年度末大掃除
- 15日(火): 3学期修了式
(1年生は最後の登校日となります。)
- 16日(水): 卒業証書授与式
- 17日(木): 公立高校合格発表
: 生徒会リターナー研
(~18日)
- 28日(月): お別れの会



【校長の独り言…】

1986年4月、原子力発電開発史上
最悪の事故が発生しました。当時高3で
大学受験を控えていたこともあり、一般常識として頭に入れて
おかなければと必死だったことを思い出します。その事故は、
チェルノブイリ原発事故と言われ、35年経つ今も、放射性物質
の飛散を防ぐための対策等は続いています。が、廃炉に向けた具
体的なめどは依然として立っていないとされています。



そのチェルノブイリ原発があるのが、ウクライナです。私たちが経験をしたことのない悲惨な状況が、そのウクライナで起こっています。連日、メディアで報道されています。戦争は決して許されるものではありません。平和な日常が続くために、私たちにできることや私たちがすべきことは何でしょうか。

遠い国の出来事と捉えるのではなく、これからの国際社会を生きぬく一人として、ぜひ、考えてほしいと思います。

すべての人間の真の幸せのために…。

